

オオジシギ

Gallinago hardwickli

シギ科・夏鳥

名前の由来

干潟や河口には出ず、内陸の水田や草原にすむシギのことを「ジ(地)シギ」といい、この鳥は大型のジシギなのでこう呼んだ。シギは「騒ぎ(さやぎ)」から来ているといい(新井白石、大言海)シギの羽音から考えられたのではないかと言う。漢字名：大地鷗



オオジシギ

特定種

国レッドリスト(2007)：準絶滅危惧種 (NT)

北海道レッドデータ：希少種 (R)

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)30cm。くちばしが長くまっすぐで、褐色の地に黒い斑紋のある背中模様が枯れ草に似ている、中型のシギ。

頭中央縦に黄白色の線があり、その下が褐色、目の上が太い眉のように黄白色、目を通して褐色、ほおは全体的に白っぽいところに褐色の線がある、というようにシマシマの顔をしている。

飛び方と声：繁殖期には非常に目立つ「フライトディスプレイ(飛びながら行うメスや他の個体に対する誇示行動)をする。

上空を飛び回りながら「ジェップ、ジェップ(ジジッ)」という声を連呼しながら翼を逆八の字型に差し上げ震動させたり、羽ばたかないで滑空したりを繰り返しながら大きく旋回する。そして「ズビズビズビャーク(ジープ、ジ

ープ)」という鳴き声に変え、翼角(翼の肩あたり)を突き出し、尾を広げて急降下する。このとき外側の固い尾羽が風を切り「ゴゴゴゴ」とすさまじい音を立てる。数十mを降下して急に折り返して「ズビズビー」と鳴きながら舞い上がる。

電柱や杭の上で「ジェプー」と鳴くことや飛び立つときに「グェッ」と太く濁った声を出すこともある。



オオジシギ。杭などの上で鳴くこともある

類似種と区別点

チュウジシギ、タシギ、ハリオシギなどのタシギ属のシギ。野外識別は難しいが、オオジシギは繁殖期に声で区別できる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
オーストラリア(越冬期)												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生息環境・分布

比較的広々とした草原、牧場、湿原など。繁殖地では、大小の池が散在するような湿地草原や灌木が散在する湿原周辺の草原を好むという。十勝には4月中～下旬に渡来する夏鳥。

分布：サハリン及び日本列島で繁殖し、冬はオーストラリア大陸東南部で越冬するという。

日本では、北海道から本州中部までに繁殖分布する。本州

中部や九州では高原で、東北地方では主に平地で繁殖する。北海道（十勝でも）では夏鳥。4月中～下旬に渡来し、9月末までには渡去する。主に標高500m以下の河川敷、農耕地、伐採跡、幼齢人工林などいろいろの開けた環境に生息するが、湿原のような環境があると標高1000m～1400mでも生息する。生息数は河川敷のような環境が多い。十勝地方では夏鳥として平地の草地に広く分布。

食性・他生物との関わり

河川周辺などの湿地の泥地で昆虫の幼虫やミミズなど、また草の種子、葉、根などを食べる。河川や湖沼縁の水に浸かるか湿った泥地の上をゆっくり歩きながら採餌する。

柔らかい地面にくちばしを差し込んで上下させながら虫を探り当て、くちばしの先だけを開いてはさみこみ、引きずり出して食べる。

渡りの時期にはタシギなどとともに、水田や川岸など内陸の草の生えた湿地で、くちばしを泥の中に突き刺して小動

物を捕まえるという。

捕食者は猛禽類やキツネなど。



オオジシギの後ろ姿

繁殖生態

繁殖期は4月～6月。繁殖期には非常に目立つ「フライトディスプレイ（飛びながら行うメスや他の個体に対する誇示行動）」をする。（形態的特徴の項参照）

草地上に皿型の巣をつくる。ふつう4個の卵を産む。メスだけが抱卵するらしいが、詳しいことはわかっていない。

興味深い話

■ディスプレイフライト（メスや他の個体に対して誇示をおこなう特徴的な飛行）の音から、ジェットシギ、カミナリシギなどとも呼ばれる。（オスのディスプレイフライトは形態的特徴を参照）

■ディスプレイフライトは4月～5月にかけて盛んに見られ、特に早朝や夕方が多い。飛び回る範囲は1～4haという報告がある。

■オスは巣作り、抱卵、育雛などは行わないと考えられている。

■長いくちばしの先は柔らかく、先端部だけを開閉することができるという。

■冬はオーストラリアに渡る。

■十勝地方のアイヌ語では「チピヤク」といい、また足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）などでは「リヤエオルシ」という。



撮影：叶内拓哉

オオジシギのディスプレイフライト

配慮事項

採餌や営巣に湿地や草地が必要。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985（1995 2版21刷）

「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕藏、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房

1993

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978

「北海道レッドデータブック2001」北海道 2001

「山川弘氏からの聞き取り記録」内田祐一（未発表）

「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ